

中門

仁和寺の中でも宗教的な重要性がますます強くなるエリアへの入り口となるのが中門である。二王門が仁和寺の伽藍全体への入り口であるのに対して、仁和寺の宝である五重塔や観音堂などはすべて中門の内側に位置している。一時期は、僧たちの住居もこの中門の内側にあった。二王門から中門の前までのエリアはより一般的な、普通の人々にも僧侶にもともに開かれた空間である。しかしながら、こうした聖俗の区分けは、応仁の乱(1467～1477年)の際に仁和寺の大部分が焼失して以来、弱まり始めた。再建にあたって、かつては中門の内側にあった建物が外側に建てられ、それによって空間の霊的な力学が変化した。門の左右には四天王のうちの2人の像が立っている。四天王は世界の守護神であり、悪と戦い、超自然的な生き物たちの軍勢を率いて仏陀の教えを守っている。四天王にはそれぞれ世界の中で自分の受け持ちの範囲がある。中門にいる四天王の一人は広目天であり、すべてを見通す力を持ち、西の方角に睨みをきかせている。もう一人は持国天で、東の王であり、東の領域を受け持っている。